

日程第4 一般質問

○議長（武石善治） 日程第4 一般質問を行います。

質問の通告がありますので、発言を許します。4番 石川富三君。

（4番 石川富三議員 一般質問席登壇）

○4番（石川富三） 議長のお許しが出ましたので、ダム及び河川の問題について、先に通告しておりました件についてお伺いいたします。

3月の予算決定間近の時期に入り、いまさら何でこんな問題かと思われるかもしれませんが、あえて申し上げさせていただきます。

萩形ダムが完成して40数年が経過したわけですが、本村と北秋田市とで設置しております小阿仁川水系対策委員会などでもたびたび取り上げられました小阿仁川の問題です。私があえて取り上げましたのは、先ほども申し上げましたが、ダムの設置以来40数年が経過しておりますが、本村と北秋田市で設置しておりましたダム関連の委員会でたびたび河川整備の要望はしておりますが、他の河川と比べ小阿仁川の整備が遅れている感じがしますが、私1人だけではないのでしょうか。皆さんも思うかと思えます。

思いますには、本村議会の本会議での議論があまり出ないのではないかと思います、一般質問に取り上げた次第です。村長は私の先輩でもありますので、率直な意見をお聞かせ願いたいと思います。

ダム築造以前の小阿仁川と今の小阿仁川と比較した場合、今の若者には想像もつかないと思われませんが、村長の少年時代の小阿仁川と今の小阿仁川を比べた場合の現状をどう思われているか、率直な意見、感想をお聞きしたいと思います。

自分としては、昔は清流で飲み水にしても良いほどのきれいな小阿仁川だったと思います。昔のことを言うと笑われてしまいますが、台所の水は堰に流し放し、トイレと言えば貯蔵式のような状態で、ゴミと言えば数箇所投げ放題の状態であったが、現在はと言えばお金をかけてはいるが衛生的にも立派な施設で処理されている現状で、環境的にも昔とは天と地の差といっても過言ではないと思います。

ところが、小阿仁川はどうでしょう。昔と今は逆になっているように感じるのは私1人でしょうか。ダムは洪水調整、水力発電と多目的ダムでしょうが、特に近年は、大雨が降れば毎年数回の田畑の冠水で丹念込めて作り上げた作物が一瞬の内に全滅という実態。また、各部落への避難勧告という今までなかったことが起きております。

今日の不景気、財政難の折ではありますが、ぜひこれだけは県、国に強力な働きかけをしていただきたいと思えます。ダムとしていつどういう事態が起きるかもわかりません。小阿仁川の中洲の除去、また、ただいまの村長の行政報告

にもありましたが、河川の採掘と工事が報告されましたが、堤防、護岸の早急な工事完成であります。大雨でも安心して暮らせる我が郷土にさせていただきたいと思えます。災害のない村を思って取り上げた一般質問の趣旨ですので、村長の小阿仁川河川並びにダムに対する考え方をお聞きしたいと思えます。

○議長（武石善治） はい、村長。

（小林宏農村長 登壇）

○村長（小林宏農） ただいま、石川議員のご質問でございますけれども、この問題は全ての人間に関連する問題でございます。やはり、心にかかっているということは、おそらく皆さんがそうであろうと思っております。

ダムが建設以来 40 年なるわけでありまして、その整備ゆえにどのように環境が変わってきたかということも、私どもが認識しているところでございます。私どもは、小さい頃にはマスも上って来、またハヤもいろんなどころに存在し、鮎、その他カジカ、いろんなものをヤスで突いて、私どもはとって食べたという記憶がございます。

その後様々な、いわば農薬が使われ、そして家庭からの排水から洗剤が扱われ、そういう形でもってこれが処理されないままに河川自体が汚染されていったという、そういう状況でございます。最近におきましては農薬の量も少なくなり、また洗剤もそれを汚染するような形でないような形ものができておりますけれども、やはりそういうことが、その原因になっていることも確かでございます。その上に、いわばダムが設立されたということで、これから出てくる環境のマイナス部門をどのように少なくしていくかというのがこれからの大きな問題であると考えております。この環境問題といたしましても、魚が上らなくなったことで魚道をどういう形で設置していくかという問題も、村からいわば県に向かっていろいろ問題提起はしているわけではございますけれども、予算の問題があつてなかなか先に進まないのが現状でございます。

お話のとおり、萩形ダム建設以前は水量豊富な清流で、魚族も多く生息してあったと記憶しておりますし、しかしながら、反面、大雨による洪水被害も今よりも大規模で、大きな災害が発生していることも記憶しております。

そうしたことから、昭和 41 年、洪水調節、正常な流量維持、発電を目的とした多目的ダムが構築されましたけれども、その後、流量不足による水質の悪化が著しく生じまして、昭和 51 年、県に対しまして河川流量復元陳情がなされまして、以来、村の議員と旧合川町議会議員、後に北秋田市議員と共に小阿仁川水系対策委員会を設置いたしまして、長年にわたり清流を取り戻すための運動を展開してきたところでございます。

また、昭和 59 年には、小阿仁川筋の良好な河川環境を保持するため、県に小阿仁川筋ダム対策協議会が発足し、毎年協議を進めているところでございます。

これまでの運動の実績といたしましては、杉花橋地点の流量を原則として毎秒5トンを維持、確保する誓約書を取り交わしており、水利権につきましても20年4月から23年3月までの3年間検証期間を設けることで、これは5年を3年に短くしたものでございまして、更新いたしまして、清流復元のための調査を継続しているところでございます。

このご指摘の環境整備が進んでいるにもかかわらず改善していないという点に関しましては、今後、検証継続しながら清流復元に向けて運動してまいりたいと考えておりますので、様々な形でのご提案を期待している次第でございます。

近年は局地的なゲリラ豪雨に見舞われておりまして、小阿仁川支流からの出水も多く、山の保水力も、いわばモノカルチャーによって低下しているのではないかと考えられます。こうしたことから、これまでにはなかった災害発生の危険性もあり、村の安全確保のため避難勧告を出すという事態も発生しているところでもございます。また、ダム操作についても、下流域が緊急放流によりはんらんすることのないよう、気象予報に基づく予備放流の願いもしてきているところでございます。

河川整備につきましては、これまで河川管理者である県に対し小阿仁川の築堤工事、中洲の除去、樹木の除去などを毎年要望してきているところでございます。現在、下流域の三里橋付近まで、いわば堤防整備が進められてきておりますが、県からは優先順位を踏まえ、緊急性のあるところから着手したいとの回答を得ているので、具体的な方向について期待しているところでございます。

さらに村民が安心して生活できるよう、小阿仁川水系対策委員会と連携しながら強力に要望してまいりたいと考えている次第でございます。

以上でございます。

○議長（武石善治） 4番 石川君。

○4番（石川富三） 関連しますので1つお聞きしたいと思います。これは昨年8月28日の小阿仁川筋ダム対策連絡協議会の議事録の中にありますけれども、県の藤田河川砂防課長さんですか、こういう答弁をしておりますけれども、ちょっと読ませていただきます。

「萩形ダムの現状を考慮しつつ、下流については築堤、堤防を造ることによってはんらんを防ぐ、洪水を防ぐということで芹沢橋の上流を進めているところでございます。それでは上流までいくのに時間がかかるということでございますので、その中で上小阿仁の周辺をどのようにするのかというのは、全体の中で考えて何が一番効果的なのか、そこら辺対応していかなければと」いろいろ答弁しているわけですが、その中で「上流でもはんらんがございまして、それをどのようにしてやるのかというのは、今、私としても頭を悩ませて

いるところでございます。部分的には築堤という要望もございますので、そこら辺はどのように対応していくかというのはそれぞれの中で部分的に伺っていく必要がございますので、それは検討させていただきます」とあります。その部分的に伺っていくということは、おそらく当局だと思います。それで、何回か県の方へ伺ったものですか、その点を1つ伺っておきます。

○議長（武石善治） 村長。

（小林宏農村長 登壇）

○村長（小林宏農） 具体的な県との交渉内容については、建設課長にお願いしたいと思います。

○議長（武石善治） 建設課長。

○建設課長（加賀谷敏明） ただいまのご質問でございますけれども、これまでの県に対する要望というのは、文書で毎年、1年に1回ですけれども、振興局の方に伺って、それで文書化して要望しています。その文書の中につきましては、具体的に、例えば、沖田面の間の対岸の築堤とか、そういうことも具体的に申しまして要望をしております。先ほど村長が申し上げましたけれども、具体的には回答としましては、優先順位を踏まえてということが県の見解でございます。これは決して下流域の方から進んでいくだけではなくて、上流の方でも部分的にそういう箇所があれば優先的に進めていきたいというのが振興局の方の回答であります。

○議長（武石善治） 4番 石川君。

○4番（石川富三） 今、課長さんからは年に1回振興局へ、やはり1回だけでは忘れると思います。何回も、協議会もあることですから、やっぱり陳情していただきたいと思います。それから、今村長もたびあるごとに、私たちも委員会に入っておりますのでわかりますけれども、どうも委員会で話したのでは、どうも村の本会議で取り上げることがあまりなかった。だからあまり村長の方の対応は遅れているのではないかと、そう思って今日も一般質問したわけです。その中で、先日、秋田のかみこあに会でダムに係わる職員で退職した人にいろいろ話を聞きました。その中で、上流だけ整備すれば下流の方へ水が良く回っていくと、なるほど上流をちゃんとすれば下流に回る。だけれども、どうも優先順位をつければ、それまでだわけですけれども、いつも上がっているところはきまっている上がる。水害になるところは。例えば、名指して悪いけれども、堂川の橋あたり、毎年同じように作物栽培しても毎年のように水が上がってだめだと、そういうところの優先順位というのはないものか。そのあたり陳情していくべきではないかと思っておりますけれども、あまり下流の方を考えて陳情しても、上小阿仁村だけ考えて一生懸命陳情していただきたいと思っております。そのあたりどういうものですか。

○議長（武石善治） 村長。

（小林宏農村長 登壇）

○村長（小林宏農） 今、石川議員がおっしゃたとおり、全くそのとおりでございまして、行政レベルにおきまして、1年に1回だけというのは確かに十分ではないことは私も認識しているとおりでございます。また、委員会を通じて、本会議でも必ずしもこれがあらわれないのではないかという危惧もお持ちでありますので、これも全くそのとおりでございまして。また、下流から上流とは言いましても、堂川周辺はいつも水が上がっているのです、緊急性においてはおそらく最高ではなかろうかと、それも全くそのとおりでございまして、これから私どもはできるだけ、この行政レベルで1回だけということではなく、数回にわたって、いわば振興局との関係を密にしながら陳情を続けてまいりたいと考えておりますので、しかも下流から上流ということは原則ではありましても、水が上がった時にはいつも被害をこうむる部分というのは緊急性の高いところがございますので、ぜひこの部分のアクセントをつけて、やはり緊急事態として陳情を続けてまいりたいと考えている次第でございまして。

以上でございまして。

○議長（武石善治） 4番 石川君。最後になりますので、答弁をもらう、あるいは質問するように。4番 石川君。

○4番（石川富三） 答弁はいりませんので、今、村長がおっしゃったように年に数回、やはり陳情して、当局ばかりでなく議会でも行かなければならない時は行きますので。その時は知らせていただきたい。なるべく早急に堤防なんかを改修していただきたいと、そういうお願いです。

これで私の質問を終わります。